

第2回北上市文化芸術推進会議報告書

日時 令和6年7月26日(金)
午後2時～3時30分
場所 北上市生涯学習センター
第1学習室

【出席者】

中川幾郎会長、昆野世宙委員、板垣崇志委員、阿部大司委員、伊藤さゆり委員、千葉真弓委員、高橋京佳委員、児玉康宏課長、中島辰也課長補佐、小泉由美子係長、和泉淳樹主任

【会議の主旨】

- (1) 令和7年度新規提案について
- (2) 令和6年度文化芸術関連事業の中間報告について

【主な意見】

(1) 令和7年度新規提案について

①アートすたぁと事業について

- ▶ 1～3歳対象とした事業は良いですね。講師は芸術工房の会員でもできるから東京から呼ばなくてもできると思う。
- ▶ スモールスタートということだと思うが、音楽系もあるといいと思う。
- ▶ できたものをおうちに持ち帰って、周りに見せることで、次に行ってみたいたいとなるような継続性を生む仕組みがあるといい。
- ▶ 何か年計画か？→まだ考えられていないが、参加者の反応を見ながら形を考えていきたい。イベントっぽく見える。誰でも参加出来るような仕組みづくりに注力した方がいい。イベント内容まで行政が考えていると疲弊してしまう。
場所はhoKkoだけでなく、いろいろな場所にばらしておいた方がよい。小さい子を連れて、遠出するのは大変。
参加費は無料にしたほうが良い。入り口は低くした方がいい。
講師は芸術家の方が絶対によい。子供の相手に慣れている人にするべき。
- ▶ プロカメラマンによる撮影付きのものは魅力的。親もいっしょに撮れる機会は少ないため、そのような機会になるとよい。
キッズピカソについて絵具は小さい子には難しいのでは。それ以外の画材などもあるとよい。
- ▶ この事業は市民文化施策であり、計画の主要施策2文化芸術による社会包摂の実現、具体施策では子供や子育て世代の参加促進を実現に向かう事業である。アトリテラシーを重要視し、体験格差をなくすことは学習主熟度の格差をなくすことになる。
今回1～3歳向けのものが出たが、幼稚園、保育園等との連携をどのようにしていくか、考えてほしい。1～3歳、幼稚園・保育園、小学校、中学校がどのような実状か、実績を示すように。高校は県立だから不要。社会人も青年期、中高年、高齢者等世代ごとのニーズをとらえ、こちらのやって満足ではなく、ニーズに呼応して、必要なものを供給していくこと。
- ▶ 文科系部活の地域移行によって学校の責任ではなく、地域が主導して文化的な部活を推進していくことになった。地域移行について、現状はどうか、不足している場合はどのような方策が必要か検討すること。小中学校のユーザー側の声が必要な段階になってきている。校長会から推進会委員のメンバーになるように委員の増員を進めること。

②民俗芸能地域発表支援事業について

- ▶ そもそもで発表することが目的ではないはず。地域に根差して小中学校に言って披露することが必要では。
- ▶ 人数増えたら衣装代を渡すとか、そういう仕組みがあってもよいかと。アワード的なものがあればやりがいにつながるのでは。
- ▶ イベントが必要なのか。地域でもともとある神事等の行事で演じることがもともとの目的だったはず。発表するだけでなく、活動しているだけでも給付してもよいのでは。
- ▶ お金を出すだけでは根本的な解決にはならないのでは。お金が足りないのであればクラウドファンディングなどの方法もある。

(2) 令和6年度文化芸術関連事業の中間報告について

民俗芸能パフォーマンスバトルについて

- ▶ 交流の場があるのはいいと思う。やり方を工夫して、若者が交流できるようにしてもらいたい。
- ▶ 交流について、ただ話すだけでなくゲーム性を持たせるとか、より交流できるようにすればいいと思う。
- ▶ 芸能女子に限定した発表とか賞があるとよいのでは。
- ▶ 単発のイベントか。継続性があるとなおよい。
- ▶ 特に審査委員は若者を好きな方で注意して選んでももらいたい。高校生だけでなく中学生も頑張っている、中学生を入れてはどうか。
- ▶ 推しを見つけるという発想が面白い。公演だけではわかりづらいだろうからプロフィールや顔が分かるパンフレットみたいなものがあるとよりわかりやすいのでは。

その他ご意見

(中川会長から)

- ▶ 所得、時間、社会的関係、病気などの格差をなくすことが必要で、補助的支援策ができたという印象。市民文化施策の一つだと位置づけられる。歴史文化を掘り下げる事業が必要で、文化財の条例を策定する際には、上位条例であるこの条例を参考にしながら策定すること。
- ▶ (伊賀市の例を参考に) 民間でやっている事業を集約してほしい。民間でやっている事業を事業カード化して提出してもらうような仕組みを検討すること。これをやることによって新たな政策が生まれる機会につながる。
- ▶ 条例、計画を市民に伝える必要があるため、事業を宣伝するチラシを作る際には、クレジットとして「推進計画に基づいて実施しています」のような文言を入れることをルール化すること。
- ▶ 企業協賛の仕組みづくりをすること。市への協賛は財政的に科目なしでもいけるはず。企業も市民であることを認識してもらい、事業に対し協賛をもらえるよう検討すること。伊賀市ではサングリアなどが企業スポンサーとして協賛がついている。
- ▶ 文化芸術団体と意見交換会、タウンミーティングをしてはどうか。そのようなフェーズになっている。そうすることで動きが出てくる。堺市ではアウトリーチに手上げしてなかった学校にPTAからなぜやらないのか、要望もあがった。

(委員から)

- ▶ チラシにクレジットを載せるのであればパッと見てわかるようなクレジットマーク（それこそ宝くじのキャラみたいな）アイコンがあってもいいかも。
- ▶ どうしてもイベントに走りすぎている印象。やれる仕組み、応援仕組みづくりに注力した方がよい。例えば、若者の郷土芸能支援についても、こちらが場所を提供するのではなく、向こうが主体的に動き、補助をこちらに求めてくるような仕組みがあれば理想的。事務負担も減るはず。
- ▶ 市民により沿った事業が検討されている印象でうれしく思う。事業がより一層広まるような宣伝方法を考えてもらいたい。